

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103490
法人名	有限会社 ティーエム コーポレーション
事業所名	グループ ホーム すみれの園
所在地	松山市畑寺3丁目 15-8
自己評価作成日	平成 21 年 11 月 3 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 [※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載](#)

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅地にあるため、地域との交流が多く、親しみやすい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣住民からも地域の一員として認められており、相互のコミュニケーションも良好である。運営推進会議も利用者・家族をはじめ地区の組長や消防団、婦人防火クラブ等、様々な立場の地域住民が積極的に参加しており、活発な意見交換が行われている。ホームでの生活が長くなった利用者は徐々に重度化して介助が必要な場面が多くなってきていると思われるが、職員一人ひとりが利用者に対して最良のケアを提供できるよう努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム すみれの園

(ユニット名) 抹茶

記入者(管理者)

氏名 谷口 クミ子

評価完了日 平成21年 10 月 31 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) 今年、新たに事業所全体で理念の見直しをし、昨年まで重視されていなかった：人と人との心のふれあい：を大切にする内容のものが掲げられた。また、職員はそれを意識し地域活動の場を広げる提案が増えてきた。</p> <p>(外部評価) 法人の理念が見直され、リーダー研修等で学習したことを活かしてユニットごとの理念を現在のものに作り替えている。毎日のミーティングで確認し、日々のケアで実践できるよう努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域の行事、清掃の参加や中学生の職場体験学習の受け入れをしている。また、日常の散歩や買い物の時、声をかけ馴染みの関係作りに努めている。</p> <p>(外部評価) 回覧板や運営推進会議等から地域行事の情報を得て、利用者とともに積極的に清掃活動等に参加することにより、地域住民とも良好な関係が築かれている。また、近所の中学校からの訪問もあり、交流を楽しんでいる。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 運営推進会議で、近隣の方々と事例を挙げ、認知症の人の理解や支援について話し合う機会を作っている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	(自己評価) 行事予定や地域活動参加の予定と報告、又前回の運営推進会議の報告をしている。その際、参加者から意見や感想をもらい、次回の会議のテーマに取り入れる等している。	
			(外部評価) 利用者・家族をはじめ、地区の組長や消防団、婦人防火クラブ等の様々な立場の方に参加してもらい、活発な意見交換が行われている。出された意見をサービスの質の向上に活かすよう努力している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	(自己評価) 市町村担当者とは2ヶ月毎に行っている。運営推進会議に出席して頂き、以前よりも身近な関係になっている。	
			(外部評価) 運営推進会議を通して相談等をしやすい関係を築いている。生活保護の利用者についても担当者と連絡を取り合い、より良いサービスが提供できるように取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) スタッフは拘束となる行為を理解した上で、利用者の安全と人権を考慮しながら、その時々に合わせて家族に承諾を頂き、玄関の施錠を行っている。	
			(外部評価) ホーム前は見通しの悪い道路で大きな用水路もあるため、利用者の状況によりやむを得ず玄関を施錠することもあるが、施錠しないことを前提とした話し合いを常に行っている。現在は利用者の状態も安定しているため、施錠は行っておらず、利用者は自由に出入りできる。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) それぞれのスタッフが、些細な事でも気になる事がある場合は報告し、話し合いの場を作るようにしている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 今後必要と思われる状況になれば、職員全員で学ぶ必要があると思う。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時に重要説明書で文書による同意を頂いている。改定時は月1回のお便りにて説明している。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 玄関に意見箱を設けている。また、運営推進会議にはご家族に参加して頂き、意見、要望等頂いている。  (外部評価) 家族の来訪時や運営推進会議等で意見や要望を出してもらっている。家族からはあまり意見等はないが、言いやすい環境や関係づくりを心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 月に1回ユニット会議を行っており、その際、職員からの要望や提案を報告している。  (外部評価) 職員がユニット会で話し合った内容等について、法人本部で行われる管理者会で、ホームの管理者が要望として伝えている。法人本部も可能な限り要望を聞き入れ、配慮してくれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 過去1回給与の見直しがあったが、個々の努力や実績など、実際現場での勤務状況を把握するのはむずかしい。やりがいのある職場環境、条件面での更なる整備が必要	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修や勉強会の案内が豊富にあり、各自が必要と思われる内容のものや、出席可能な時間に合わせて参加している。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 同業者との交流は行われていないが、協力病院や他の事業所での勉強会には積極的に参加している。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 本人に要望や困っていることを聞き、その内容を中心にケアプランを立てている。本人の気持ちや生活の変化に合わせて、サービスの付け足しや変更を行っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前に見学したり、こちらから面会に行く等し、情報交換し合う。入居後は、要望の確認をしてケアプランを作成している。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 医療機関、事業所などの連携はとっており、必要に応じて調整している。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 職員は利用者から様々な生活の知恵を教わっており、共に生活し、支えあう関係を築いている。	
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 本人の状況を知っていただき、本人の意向をお伝えし、家族と共に支えていく関係を築いている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域の行事、友人との手紙等、関係継続の支援に努めている。  (外部評価) 利用開始時には、かかりつけ医やケアマネジャー、家族等から情報を収集している。家族や友人にも行事に参加してもらう等、訪問してもらう機会が増えるように働きかけている。また、職員や利用者との新しい馴染みの関係も築けるよう積極的に働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 月に1度程度ユニットで、ビンゴゲーム等をして利用者同士で楽しい会話ができるようにしている。その他、庭の花の手入れが好きな利用者同士で、朝の水やりなどを楽しんでもらっている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 利用者の心身状態で入院し退居された時でも、お見舞いに行ったり、その後の経過を見守ったりしている。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者一人ひとりについての思いや意向について、月1回のユニット会議でスタッフ全員で話し合い、利用者が穏やかに生活出来るようにしている。また、毎日のショートミーティングでも利用者について、気になる事などを話し合い、良い介護が出来るよう努めている。 (外部評価) 利用者本人や家族からホームでどんな生活を送りたいか等の聞き取りを行ったり、普段の会話や行動等から思いを汲み取るなどして、日々のケアに反映させるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者の家族から聞き取りしたり、アセスメント、サマリー等で利用者の歴史を知る。利用者の日々の話、行動でも利用者について把握するように努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者の1日の過ごし方は、それぞれ違っているが、一人ひとりにあった介護の仕方をスタッフで話し合い、統一している。見守り介護も話し合い決めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) ケアプラン作成する前に、利用者からの希望、家族からの希望を聞き、利用者が穏やかに生活できるように計画し、ユニット会議で、スタッフ全員の意見を聞き話し合いをする。	
			(外部評価) 担当制を導入しており、利用者や家族から要望等を聞き取り、原案を作成している。さらに、全職員によるユニット会議で意見を出し合い、介護計画を完成させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 新利用者について、気づきを利用し、実践や介護計画に活かしたい場合は、毎日のショートミーティングで話し合い、決定事項は、他のスタッフにも確実に申し送りをしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) その時のニーズに応じて、利用者、家族の立場、気持ちになり考えて支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) ・2ヶ月に一度の推進会議の実施 ・地域の運動会や盆踊りへの参加	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) かかりつけ医は、本人や家族の希望を優先している。 事業所の協力医による、月2回の訪問診療時には、医 師に日常の様子を伝え指示を得ている。  (外部評価) 利用者や家族が希望する医療機関を受診できるよう支 援している。また、協力医療機関の訪問診療も利用す ることができ、専門医との協力体制もできている。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 状態変化や異常のある時は、看護職員に報告し、必要 に応じて協力医療機関の看護師と、相談できる体制を とっている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できる ように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 退院時家族の要望を聞き、医療機関との情報交換を蜜 に行い、必要に応じてカンファレンスにも参加してい る。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 家族、協力医療機関と連絡を取り合い職員、看護師と 共にチームで取り組んでいる。  (外部評価) ホームとしての看取りの経験はまだないが、家族が希 望すればできる限りのことをしたいと考えている。家 族とも機会があるごとに話し合いをもって方針を共有 するよう努めている。	家族や協力医療機関との連携をさらに密にし、利用者 や家族が安心できるケアを提供できるよう一層の努力 を期待したい。また、実際に利用者が重度化してお り、介護量も増えてきているため、職員を心身ともに バックアップする体制も今以上に強化することを期待 したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルを作成し、緊急時に備えているが、実践力に不安がある。事業所で勉強会も行われているが、定期的ではない。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 6ヶ月に1回、消防署職員と地域の方に協力してもらい、避難訓練を行っている。昼夜や災害状況の設定を変え、その都度指導を得ている。  (外部評価) 火災や地震等に対する訓練を昼夜の設定を変え、地域住民にも参加してもらって行っている。地震に関する講習も受けており、職員の防災意識は高い。	地域住民との良好な関係が築けており、協力を得ることができる体制があるので、次のステップとしてホームが地域に協力できることを検討し、運営推進会議等を通じて発信して、更なる相互協力の体制を構築していくことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) ユニット内のミーティングで、気付いた点などを話し合うことはあるが、職員全体が徹底できているとは思えない。  (外部評価) 利用者の居室にはのれんが掛けられ、室内が直接見えにくいように配慮している。利用者への声かけも状況に応じて変化させることはあるが、利用者のプライドを傷付けることはなく、会議等でも検討し確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 利用者が言葉で意思表示できる場合は、ゆっくりと話しに耳を傾け、意思表示が難しい場合は選択肢を与えるようにしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 買い物に行きたい、散歩に行きたいなどの希望があれば、行ける時間を作り、希望に添えるよう支援できている。また、希望があれば、体操などをして適度な運動をしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 月に何度か買い物に行き、そこで化粧品など身だしなみを整えられるような物を用意している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 利用者一人ひとりに好きなメニューを聞き、週に一度それを盛り込んだメニューも作っている。また、ケアプランに沿って、おやつなどにも好きな物をお出ししている。  (外部評価) 利用者は、後片付け等できることは自主的に行っており、職員は無理強いせず暖かく見守っている。テレビから流れる話題について会話を弾ませながら、楽しく食事をしている。また、利用者の状態に応じて必要な場合は隣に座り、さりげなく支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量、水分摂取量のチェックを行い、体調管理をしている。誤嚥しやすい利用者には、ゼラチンやかんてんゼリーなどで工夫し、脱水にならないように支援している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 歯ブラシ、スポンジ歯ブラシなどを用いて、本人で出来る所はして頂き、出来ない所を支援している。また、夕食後はポリデントにつけて清潔に保っている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 出来る限りトイレでの排泄ができるよう支援している。食事、おやつ前後、気持ちよく食べて頂けるよう心がけている。	
			(外部評価) 排泄管理表で記録を取り、個別の排泄パターンを把握している。介助が必要な利用者が多いが、トイレでの排泄を基本としており、体調や状態を考慮しながらトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 排便の状態を細かく記録し、便秘の方はできるだけ薬に頼らず、寒天ゼリーなど食物繊維を多く含んだ物を食べて頂いている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 個々の体力を考え、2日に1回入浴している。本人の希望があれば、その日の体調を見て入浴して頂いている。	
			(外部評価) 利用者の希望により入浴を支援している。介助の必要な利用者が増えており、職員の負担は大きくなっているが、職員は利用者の希望を優先するよう協力し合って支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その時の状態や状況に応じて、その都度利用者の希望も取り入れ、個々の生活リズムを作りながら支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 薬剤師より薬受け取り時、説明を聞き申し送りを徹底している。特に変更時は、症状の観察を充分に行い、異常があればかかりつけ医に報告している。服薬時は必ず二人で確認して誤薬のないよう支援している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 自室の掃除、洗濯物たたみなど、出来る範囲で自主的にされている。また、希望により買い物や散歩に同行、ホーム内では、それぞれ自分のペースで、自室やリビング好きな場所でテレビを観る、歌う、歌を聴くなどして過ごされている。状況に応じて声かけなどの支援をしている。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 個々の希望により、外出支援を行っている。地域の行事等（運動会、夏祭り）では、地域の方がテントの場所の提供や車椅子介助の協力があり、プログラム参加で、ホーム内では見られない表情があったり、また、ご家族と帰郷したり、初詣に行き新たな気持ちになり意欲につながる等の支援を心がけている。  (外部評価) 利用者の体調や希望に配慮しながら、個別に近所の大型ドラッグストアやスーパーに買い物に行ったり、寺にお参りに行ったり、散髪に行くなどしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 本人、ご家族の希望がある場合は、少額を所持している利用者もおられるが、財布をポケットに入れているだけで安心されている。高額になるとトラブルの原因になるおそれがあるため、必要時は預金から使う分だけ渡し、買い物をされている。取り扱いについては、ご家族の了解を得ている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 手紙はプライバシーに配慮しながら、本人自身書かれている時々代筆を頼まれる時があるが、その時の状況に応じて対応している。投函はほとんどスタッフが支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 共用の空間は、明るさや清潔の心がけ、利用者に居心地良く過ごして頂けるようにしている。特にトイレは利用回数が多く汚染しやすいため、その都度、掃除や消毒を行っている。また、季節を感じて頂くため、玄関に季節の花を一緒に植えたり七夕飾り、壁には絵や写真を掲示している。</p> <p>(外部評価) 玄関先には季節の草花を植え、廊下の壁には利用者の写真や作品を飾っている。共用空間は適度な広さで、利用者が何処にいても動きが確認できる。利用者は、日中ほとんどの時間をリビングで過ごしている。大きな窓からは適度に光が入り、居心地良く過ごせる空間となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 利用者一人ひとりが、ストレスや不安のないように、リビングでの座席の位置など、スタッフで話し合い、より落ち着かれる場所を検討している。また、ソファなどを利用して、数人で過ごせるスペースも設けている。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのあるものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) それぞれ自宅で使っていた物（たんす、洋服かけ、椅子、机ラジカセ、テレビなど）を自室に置き、過ごされている。また寝具やタタミなど好みに応じて使用し、ゆったりとした暮らしができるよう支援している。</p> <p>(外部評価) 家族の協力を得て、自宅で使用していた家具や仏壇、好みの置物や写真等を居室内に配置し、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 一人ひとりの身体機能に合わせた危険の防止や「できる」ことを活かした個別の設備や道具を常に検討し、利用者が安心して生活できる環境作りに努めている。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870103490
法人名	有限会社 ティーエム コーポレーション
事業所名	グループ ホーム すみれの園
所在地	松山市畑寺 3丁目 15-8
自己評価作成日	平成21 年 11 月 3 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 ※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成21年11月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

住宅地にあるため、地域との交流が多く、親しみやすい

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

近隣住民からも地域の一員として認められており、相互のコミュニケーションも良好である。運営推進会議も利用者・家族をはじめ地区の組長や消防団、婦人防火クラブ等、様々な立場の地域住民が積極的に参加しており、活発な意見交換が行われている。ホームでの生活が長くなった利用者は徐々に重度化して介助が必要な場面が多くなってきていると思われるが、職員一人ひとりが利用者に対して最良のケアを提供できるよう努力している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

## 自己評価及び外部評価結果表

### サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

#### 【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

#### ※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。  
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。  
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!  
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!  
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム すみれの園

(ユニット名) 梅干

記入者(管理者)  
氏名 谷口 クミ子

評価完了日 平成21年 10 月 31 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
<b>I.理念に基づく運営</b>				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	<p>(自己評価) すみれグループの基本理念が作成され、事業所に掲げている。またユニット毎に、それぞれの介護理念を作り共有できるように、日々のミーティング時やユニット会議などで話し合っている。</p> <p>(外部評価) 法人の理念が見直され、リーダー研修等で学習したことを活かしてユニットごとの理念を現在のものに作り替えている。毎日のミーティングで確認し、日々のケアで実践できるよう努めている。</p>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	<p>(自己評価) 地域での行事、清掃活動や防災訓練などに参加することで、地域住民との交流に積極的に取り組んでいる。また推進会議の出席や、事業所内でバザーなどを行い、気軽に近所づきあいができるよう努めている。</p> <p>(外部評価) 回覧板や運営推進会議等から地域行事の情報を得て、利用者とともに積極的に清掃活動等に参加することにより、地域住民とも良好な関係が築かれている。また、近所の中学校からの訪問もあり、交流を楽しんでいる。</p>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	<p>(自己評価) 推進会議や地域行事、清掃活動、防災訓練など参加することで、地域の方々との交流が持てるようになり、少しずつ地域の一員として受け入れられるようになった。また、中学生や大学生の職場体験にも協力でき、若い世代にも知ってもらえることが出来た。</p>	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 運営推進会議を始めて2年半、地域の方々の参加も多 くなり色々な良い意見を頂き取り組んでいる。徘徊、 帰宅願望について、救急蘇生法、火災時の対処法な ど、専門家の説明に近隣の高齢者も質問されるなど興 味をもたれている。	
			(外部評価) 利用者・家族をはじめ、地区の組長や消防団、婦人防 火クラブ等の様々な立場の方に参加してもらい、活発 な意見交換が行われている。出された意見をサービ スの質の向上に活かすよう努力している。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議を開催するようになって、細部の相談な どが出来るようになった。また、その会議の折、課題 に対して、地域の方々の助言や協力もあり、新入居者 の困りごとの解決への糸口が見え始めたりして少しづ つサービス向上へつながりつつある。	
			(外部評価) 運営推進会議を通して相談等をしやすい関係を築いて いる。生活保護の利用者についても担当者と連絡を取 り合い、より良いサービスが提供できるように取り組 んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 身体拘束をしないケアの実践への取り組みについて全 職員が認識できている。以前は、ベッドより転落の危 険性のある方に対して、家族の同意でベッド柵2本使 用したことがあったが現在はない。	
			(外部評価) ホーム前は見通しの悪い道路で大きな用水路もあるた め、利用者の状況によりやむを得ず玄関を施錠するこ ともあるが、施錠しないことを前提とした話し合いを 常に行っている。現在は利用者の状態も安定している ため、施錠は行っておらず、利用者は自由に出入り できる。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 全職員が常に注意を払い、見過ごされることのないよう防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 資料などを見て勉強しているが、制度の理解と活用まではできていない。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約書や重要事項説明書に沿って十分説明を行い理解して納得されている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 面会時や毎月送る状態報告などで、本人や家族などの意見、要望などを引き出すよう努めている。また、運営推進会議時ご家族にも参加して頂き、他の参加者からの率直な意見などを受け、質の向上につながり、運営にも反映できるよう努めている。  (外部評価) 家族の来訪時や運営推進会議等で意見や要望を出してもらっている。家族からはあまり意見等はないが、言いやすい環境や関係づくりを心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) それぞれのユニット毎に、毎月会議時に要望や意見などを報告しているが、あまり反映されない場合が多い。月2回管理者会が行われているが、実際の現場での細かな所までは伝わらないこともある。  (外部評価) 職員がユニット会で話し合った内容等について、法人本部で行われる管理者会で、ホームの管理者が要望として伝えている。法人本部も可能な限り要望を聞き入れ、配慮してくれている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 以前、代表者より職員へ給与水準、要望などの話し合いの場があったが、職員の努力や実績などに対して処遇への反映などの対応の配慮が乏しい。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修や勉強会への参加を勧め、自主的に学ぶ機会を作っている。また、事業所内でも、ケアの質の向上や統一化を図るため、勉強会の見直しや、ケアの実践を行いながら知識や技術が身につくように努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 市や県からの講習会や、近隣のグループホーム交流会にも機会があれば参加し、他の同業者との交流や連携に努めている また、法人グループ内の事業所との情報交換を行い、他法人同業者の取り組みや活動などを聞き参考にしている。	
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 日常でのコミュニケーションを通し、本人の思いや身体面などにおいても状態の把握ができるように心がけている。本人からの訴えや要望などがあれば、それを日常に取り入れられるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) ご家族の相談や要望の声に対して耳を傾け、しっかり聴く姿勢を心がけている。また、話しやすい環境作りで良い関係が築けるよう努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 医療機関との連携、家族、近隣などの協力により対応 必要時、訪問歯科や訪問マッサージなどの利用も行っている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 昔の話を聞く、歌う、散歩時に植物の名前を聞いたり、体操をするなど利用者と職員が一緒に関わることによりそれぞれの個性や意向などがわかり、良い関係が保てるように努めている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族の面会の少ない利用者には、電話連絡や月1回のお便りで近況報告し来てもらっている。自宅に帰りたいとの希望があればご家族に連絡が取れるよう支援している。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 近隣に在住している利用者の同級生が面会に来られたり、同窓会の写真を届けて声かけしてもらっている。また、以前同僚だった友人とカラオケに行ったり、独居だった自宅が心配で時々従兄弟と様子を見に行ったりしている。その都度、連絡をしたりと支援に努めている。 (外部評価) 利用開始時には、かかりつけ医やケアマネジャー、家族等から情報を収集している。家族や友人にも行事に参加してもらう等、訪問してもらう機会が増えるように働きかけている。また、職員や利用者との新しい馴染みの関係も築けるよう積極的に働きかけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) リビングにて、10時と15時にコーヒータイムを設けて、一人ひとりの希望に沿った飲み物を提供し、談笑したり、テレビやDVDを観たりと、利用者同士が関わり合える環境作りを工夫し、コミュニケーションがはかれるよう支援している。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 他の場所に移られても面会したり、状況を聞いたり、スタッフに近況を伝えてもらっている。また、入居中に撮った写真などもご家族に渡している。	
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 利用者の日常の会話や状態などから、希望や意向を把握、また困難な利用者には、面会時のご家族との会話などから本人の思いなどの把握を行い、職員の気づいた点などを情報交換し、ミーティング時に検討している。  (外部評価) 利用者本人や家族からホームでどんな生活を送りたいか等の聞き取りを行ったり、普段の会話や行動等から思いを汲み取るなどして、日々のケアに反映させるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入居時のアセスメントを基に、本人やご家族との生活、関わりなど細部に渡って情報収集に努め、これまでの暮らしの経過を把握し支援している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者一人ひとりの生活の中で、各々の日々の過ごし方を見極め、精神面、身体面共に把握できるように、職員全員で情報の共有に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 利用者本人が希望を言える方には、希望が達成できるような介護計画を作成し、言えない方はご家族や身近な方と話し合い作成している。設定期間毎の見直しは、変化に応じて対応している。  (外部評価) 担当制を導入しており、利用者や家族から要望等を聞き取り、原案を作成している。さらに、全職員によるユニット会議で意見を出し合い、介護計画を完成させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の実践でその時々状況を観察し、介護記録に具体的(本人の言葉など)に記録している。その中から新たな気づきや発見などがあり、毎日のミーティングやユニット会議時に情報交換を行い、計画の見直しに取り入れている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) その時々状況に応じて、本人、家族の希望に対応している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 運営推進会議で、地域の方々や民生委員、市役所、消防、包括支援センター等、情報交換を行ったり地域活動に参加したり、ホームのイベントにも協力して頂いている。また、中学生や大学生の職場体験の受け入れにも取り組み、地域との協働に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	<p>(自己評価) 月2回のかかりつけ医の訪問診療を受けている。また、 ご家族の希望される病院や専門医への受診支援も行っ ている。</p> <p>(外部評価) 利用者や家族が希望する医療機関を受診できるよう支 援している。また、協力医療機関の訪問診療も利用す ることができ、専門医との協力体制もできている。</p>	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	<p>(自己評価) 日々の生活の中での心身の小さな変化を見逃さず チェックし、看護職員やユニット長に報告し、必要時 かかりつけ医や訪問看護師に相談している。</p>	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	<p>(自己評価) 本人に関する情報交換や退院後のケアなどについて、 医療機関、ご家族、事業所職員で話し合いを行い、な るべく長期入院にならないよう支援している。</p>	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	<p>(自己評価) 現在の状態について、ご家族にかかりつけ医より説明 を行い事業所側としての対応など、その時々状況で 話し合いを行っている。</p> <p>(外部評価) ホームとしての看取りの経験はまだないが、家族が希 望すればできる限りのことをしたいと考えている。家 族とも機会があるごとに話し合いをもって方針を共有 するよう努めている。</p>	<p>家族や協力医療機関との連携をさらに密にし、利用者 や家族が安心できるケアを提供できるよう一層の努力 を期待したい。また、実際に利用者が重度化してお り、介護量も増えてきているため、職員を心身ともに バックアップする体制も今以上に強化することを期待 したい。</p>

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 運営推進会議時に、救命士による応急手当法や消防への連絡方法、防災訓練時にAEDの使用方法などの指導を受ける等指導を受けている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 消防訓練を定期的に行ったり、防火対策として毎日の点検や防災対策のチェック(月1回) 施行。災害時の避難場所や避難経路の確認のため、地域の防災訓練にも積極的に参加し、地域の方々にも協力が得られるような体制を築いている。  (外部評価) 火災や地震等に対する訓練を昼夜の設定を変え、地域住民にも参加してもらって行っている。地震に関する講習も受けており、職員の防災意識は高い。	地域住民との良好な関係が築けており、協力を得ることができる体制があるので、次のステップとしてホームが地域に協力できることを検討し、運営推進会議等を通じて発信して、更なる相互協力の体制を構築していくことを期待したい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) その人の基本情報や今までの生活環境、家族関係、趣味趣向などを把握した上で、職員間で話し合い対応している。  (外部評価) 利用者の居室にはのれんが掛けられ、室内が直接見えにくいように配慮している。利用者への声かけも状況に応じて変化させることはあるが、利用者のプライドを傷付けることはなく、会議等でも検討し確認し合っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 視線を合わせて、ゆっくり話し掛けながら和やかな雰囲気を作り、自分の思いが伝えられるように努めている。意思表示できない方には、表情やしぐさなどの反応で何を求めているか読み取れるように、職員で話し合いながら努力している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 介助なしで動ける方は、自分のペースで過ごされている。要介助者は、本人の意思確認をして支援している。意思疎通の困難な方はその時の状態に合わせて介助している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 整髪、髭剃りなど自分で出来る方はされている。こだわりのある方はT字カミソリでの髭剃りを希望、お湯の準備のみ介助している。散髪希望者には、職員がしたり、入居者のご家族の美容師さんがボランティアでして頂いている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 全介助者や男性入居者が多いので、食後の食器をまとめお盆にのせる程度や、声かけでテーブル拭きなどされている。	
			(外部評価) 利用者は、後片付け等できることは自主的に行っており、職員は無理強いせず暖かく見守っている。テレビから流れる話題について会話を弾ませながら、楽しく食事をしている。また、利用者の状態に応じて必要な場合は隣に座り、さりげなく支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 1日の水分摂取量、食事摂取量のチェックを行い、体調管理を行っている。水分摂取が少ない利用者には、好きな飲み物で補っている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 自分で出来る利用者は、自主的に食後の歯磨きをされている。出来ない方は職員が介助している。必要時、歯科受診や訪問歯科を依頼して指導を受けている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄管理表でチェックし、入居者一人ひとりの排泄パターンを把握できるようにしている。それをふまえた上でトイレ誘導を行ったり、各々の使用しているオムツの評価も状態に変化があれば、ミーティングで適宜行っている。	
			(外部評価) 排泄管理表で記録を取り、個別の排泄パターンを把握している。介助が必要な利用者が多いが、トイレでの排泄を基本としており、体調や状態を考慮しながらトイレ誘導を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 食事やおやつ時など、なるべく多く水分を摂ってもらうようこまめに声かけや介助を行っている。また、利用者の好む飲み物や乳製品、果物をご家族に持ってきていただき、飲用してもらっている。ラジオ体操、散歩などもケアプランに取り入れている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) ほとんど全介助が必要な利用者が多いため、職員が予定を立てている。2~3回/wで、その日の健康状態や利用者の希望も配慮した上で、入浴の支援を行うよう心がけている。	
			(外部評価) 利用者の希望により入浴を支援している。介助の必要な利用者が増えており、職員の負担は大きくなっているが、職員は利用者の希望を優先するよう協力し合って支援に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) その時の状況や状態に応じて、その都度、利用者の希望も踏まえた上で、1日の生活リズムを作り、支援するよう心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個別に受診ノート、処方箋があり変更時申し送りを徹底している。服薬介助時は、必ず氏名、用法を確認、他の職員にも声をかけ再確認し、二重にチェックするようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 時代劇やお笑い番組の好きな利用者には、リビングでテレビを観る時間を作ったり、カラオケが好きな利用者には、近所のカラオケ喫茶に同行して、なるべく要望にこたえられるよう支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 希望時になるべく対応できるように支援している。自宅へ帰りたいたいという希望があり、職員が同行できない場合は、ご家族に連絡し、相談しながら協力して支援している。	
			(外部評価) 利用者の体調や希望に配慮しながら、個別に近所の大型ドラッグストアやスーパーに買い物に行ったり、寺にお参りに行ったり、散髪に行くなどしている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自己管理が困難な利用者は、ご家族と話し合い、事務所で管理している。できる利用者については、小銭程度のお金をお渡ししている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) その都度利用者の要望にこたえ対応している。電話をかける動作が困難であったり、ポストまで利用者が手紙を投函できない場合など状況に応じて支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 共用スペースは常に清潔に保ち、不快のないよう気をつけている。特にトイレの汚れはこまめにチェックしている。またリビング兼食堂は人数が多く集まる場所なので、室温や換気に注意している。</p> <p>(外部評価) 玄関先には季節の草花を植え、廊下の壁には利用者の写真や作品を飾っている。共用空間は適度な広さで、利用者が何処にいても動きが確認できる。利用者は、日中ほとんどの時間をリビングで過ごしている。大きな窓からは適度に光が入り、居心地良く過ごせる空間となっている。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 同じ席で新聞やテレビを観たり、一緒に談笑されたりと自由に過ごされているテーブルや、その時の状況に応じて工夫し配慮している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 自室で臥床休憩されている際、好きなテレビを観たり、民謡を聞いたりされている。また、読書が好きな方には読みやすいように台を置いたりなどの工夫をしている。</p> <p>(外部評価) 家族の協力を得て、自宅で使用していた家具や仏壇、好みの置物や写真等を居室内に配置し、利用者が居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 歩行器での歩行や車椅子駆動などの際、廊下や自室への導線に障害となるものを置かないように気を配っている。</p>	